



スローガン
「幸せ
あふれる
北小」
～私も幸せみんなも幸せ～

はびねす

時津町立時津北小学校
学校だより R7第7号

令和7年7月17日
文責：校長 今井大輔

学びの足跡が随所に

充実した令和7年度の1学期が終了いたしました。4月と比べ、子供たち一人ひとりが、そして各学級が、たくましく賢く成長したと実感しています。

子供たちが大きく成長できたのは、保護者の皆様の日頃からの温かいご支援と、地域の皆様の多大なるご協力があったこそです。心より感謝申し上げます。

さて、本校では子供たちが自身の頑張りや成長を実感できるよう、様々な工夫を凝らしています。今回はその一部をご紹介します。



各学年では、4月からの子供たちの学びの軌跡を掲示しています。子供たちがその時々抱いた思いや、頑張った足跡が写真や言葉とともに表現されており、成長を振り返る良い機会となっています。

長崎外国語大学との連携では、学生さんたちの交流を通して、子供たちにとって貴重な学びと経験の機会を得ることができました。双方にとって実り多い時間となりました。



管理棟の図書館へ上がる階段に設けられた「家読コーナー」には、子供たちの読書感想や保護者の皆さんの温かいコメントがたくさん寄せられています。保護者の皆さんのコメントを読ませていただく度に、心がほっこりと温まります。



全学級が受講したマナ1講座。その学びは一過性のもので終わらず、子どもたちが学んだことを習慣として身につけようと、継続的な取り組みがなされています。

廊下や階段だけでなく、各教室にも学びの足跡がたくさん残されています。掲示教育は、子供たちの成長を支える大切な要素であり、私たち教師が特に力を入れていることのひとつです。

6年生体験ペーロン&CSあいさつ運動

7月12日(土)に6年生の体験ペーロン、16日(水)にCSのあいさつ運動、そして14日(月)に3年生の芋の中切りといった北小の地域力がよく分かる行事が続きました。子々川・日並地区の自治会・公民館や友紫会・海遊会、交友会の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございます。



更にはその期間は交通安全週間であったので、交通安全少年団の子供たちも活躍しました。詳しくは、北小のホームページを見ていただければ幸いです。



つぶやき

昨年度の1学期末から、学校現場にとって大きな変化があった。私自身、教職に30年以上携わっているが、今回のような経験は初めてのことであった。それは、成績評価を前後期制に移行し、夏休み前に通知表を渡さないことである。これは町内の小中学校で統一して決定したことで、ちょうど1年が経過した。正直なところ、当初考えていた以上に多くの良い効果があったことに驚いている。

変更の第一の目的であった「授業の実」は、想像をはるかに超えるものだった。例年であれば、1学期の成績を出すため、6月後半から7月初旬にかけて、なんとか学習内容を終わらせる必要があった。そのため、駆け足で授業を進めたり、急いでテストを実施したりする状況が常態化していた。これは、私自身も学級担任時代に何度も経験してきた。特に、5月の体育祭で練習に時間をかけ過ぎた年は、学期末に「ああ、あと3日ほしい」「1日7時間授業にできないか」と、もどかしい思いをしたものだ。

通知表を前後期制にしたことで、1学期(そして2学期も同様に)の最後まで、先生方がゆとりをもって学習指導に取り組めるようになった。これは当然、子供たちにとって計り知れないメリットとなる。学習内容の理解が深まり、より一層の定着が図られるからだ。

保護者の方々や子供たちの中には、夏休みや冬休み前に通知表がないことに物足りなさを感じる方もいらっしゃるかもしれない。しかし、学校の最重要課題は、何よりも「学力をつけること」である。そして、子供たちとじっくり向き合う時間を多く持つこともある。

この成績2期制は、子供たちにとって間違いなくプラスとなる大きな改革だと受け止めていただけると嬉しい。ぜひ、9月末の通知表を楽しみにお待ちいただきたい。

ペアレントトレーニングなるものをご存じでしょうか。ペアレントトレーニングとは、子どもを変えるためではなく、支援者がより良い対応を身につけて、楽になるためのものです。私もこれを家庭や学校で実践し、大変ためになりました。今号からいくつかにわけながら紹介していこうと思っています。

【はじめに】

このトレーニングはステップ1～5に分かれています。大原則として…

- ① 必ずステップ1から始めて、できるようになったらステップ2、またできるようになったらステップ3と「順番に進める」こと、
- ② 途中のステップで行き詰ったら「前のステップに戻る」ことがあります。

この大原則を守らないと、逆効果となる事になるのでご注意ください。また、時間的余裕を持つことで、気分的余裕へとつなげることも大切です。

【ステップ1】～自分は子どものどんなところに注目しているか～

お子さんの行動を観察したり、思い起こしたりしてみてください。そして、①してほしい（望ましい）行動、②してほしくない（望ましくない）行動、③許し難い行動の3つに分類します。3分間ほど時間を区切り、表などに書き出すと、自分がどこに注目しているか分かりやすくなります。

① してほしい、望ましい行動	② してほしくない、望ましくない行動	③ 許し難い行動

チェック! ①に対して②や③が多くないですか？

チェック! よく考えると②なのにしつこかったり嫌気がさしたりで③について入れてないですか？（注意するとふてくされる、へ理屈を繰り返すなど→これらは②です）

①の行動にもっと注目する（見付ける）のがステップIの目標です。1度書き出して、1週間ほど意識して①の行動を探してみてください。その後、

① の数（7～10ほど）>②の数（3～5ほど）>③の数（1～2ほど）ぐらいになれば次のステップ2へ！

〈望ましい例です〉

- ① 毎日学校に行く、たくさん食べる、病気をあまりしない
- ② おはようと自分から言わない、言われないと宿題をしない
- ③ 自分や人を傷つける、物を壊す など。

